

ダニエル書 - 第九十八号

エリヤの三重の適用と終末時代の審判：調査段階と執行段階の理解

Jeff Pippenger

2024-02-29

エリヤの三重の適用は、終末の日々の初めと終わりにエリヤが現れることを示している。「終末の日々」とは裁きの日々であり、それは段階的で、二種類の裁きに分かれている。すなわち、終末の日々の初めに始まった調査審判と、終末の日々の終わりに行われる執行審判である。エリヤの三重の適用は、主として、間もなく到来する日曜法をもって始まる執行審判の歴史を表している。

調査審判は、神に従う者であると告白した者に限定され、主として直接の告白によるが、少数の事例では生き方による間接的な告白も含まれる。

(なぜなら、神の前に義とされるのは律法を聞く者ではなく、律法を行う者だからである。律法を持たない異邦人が、本性によって律法に含まれる事柄を行うとき、彼らは律法を持たなくても、自らに対して律法となっている。彼らは、律法の働きがその心に書き記されていることを示しており、良心もまたそれを証し、その思いは、時には互いに責め、また時には弁明している。) ローマ人への手紙 2:13-15.

調査審判には二つの主要な区分がある。というのも、それは、まことの神への信仰を告白した死者（アダムの時代以降の者たち）の生涯の調査から始まり、そして2001年9月11日に「生者の調査審判」の過程が開始されたからである。調査審判には、死者から生者へという区分以外にも別の区分がある。なぜなら、裁きは神の家から始まり、終わりの時代における神の家とはラオデキア的アドベンチズムだからである。間もなく到来する日曜法において神の家に対する裁きが終結すると、その時バビロンにいる神のほかの群れが裁かれる。

執行審判とは、救いの申し出を拒んだ者たちに対する神の懲罰である。執行審判は、間もなく到来する日曜法の施行とともに始まる。その時、アメリカ合衆国は怒りの杯を満たし、それは同時に同国の恩恵期間の杯も満ちたことを意味し、国家的背教に続いて国家的破滅が訪れる。地球上のすべての国々は、日曜法を施行する点でアメリカ合衆国に倣い、それぞれの国も自らの杯を満たし、同様に国家的破滅を被る。

「宗教の自由の地であるアメリカが、良心に強制を加え、偽りの安息日を尊ぶことを人々に強いる点で教皇制と手を結ぶようになると、地球上のあらゆる国の民はその手本に倣うよう導かれるであろう。」 Testimonies, 第6巻、18.

執行審判もまた二つの部分に分かれている。アメリカ合衆国における日曜法から、ミカエルが立ち上がって人間の恩恵期間が閉じられる時まで、神の裁きは憐れみと混じっている。しかしミカエルが立ち上がると、最後の七つの災いの注ぎ出しによって表される神の怒りには、憐れみが含まれない。日曜法の危機の期間中、人々や諸国民に対する執行審判は憐れみと混じる。なぜなら、その時なおバビロンの中に、安息日礼拝と日曜礼拝の区別を理解する機会が与えられている者たちがいるからである。

ああ、人々が自分たちの顧みられる時を知ることができたなら！ この時の試金石となる真理をまだ聞いたことのない人が多くいる。神の御霊が働きかけておられる人々も多い。神の滅びをもたらす裁きの時は、何が真理であるかを学ぶ機会を持たなかった者たちにとってのあわれみの時である。主は彼らを優しく顧みられる。主のあわれみの心は動かされ、救うための御手はなお差し伸べられている。一方、入ろうとしなかった者たちには戸が閉ざされている。

神のあわれみは、その長い忍耐に示されている。神はご自身の裁きをとどめ、警告のメッセージがすべての人に響き渡るのを待っておられる。ああ、もし私たちの民が、世界に最後のあわれみのメッセージを伝えるという、自分たちに課せられている責任を、あるべきように感じるなら、なんと驚くべき働きがなされることでしょうか！ 『証言』第9巻、97頁。

「神の滅びをもたらす審判の時は、何が真理であるかを学ぶ機会のなかった者たちに対する憐れみの時である。」その二つの「時」は、「入ろうとしなかった」ラオデキヤのアドベンチストたちに対して「戸が閉ざされる」ときに同時に始まる。

「私は、聖なる安息日が今もこれからも、神のまことのイスラエルと不信者との間の隔ての壁であること、そして安息日こそが、神の愛する待ち望む聖徒たちの心を一にするための中心的な問題であることを見た。もしある者が信じ、安息日を守り、それに伴う祝福を受け、それからそれを捨てて聖なる戒めを破るなら、天で支配しておられる神がおられるのと同じくらい確かに、自分自身に対して聖なる都の門を閉ざすことになるだろう。私は、神には、安息日をまだ理解して守っていない子らがいるのを見た。彼らはそれについての光を拒んだのではなかった。そして、患難の時の始まりに、私たちが出て行って安息日をより完全に宣べ伝えるとき、私たちは聖霊に満たされた。これは教会と名ばかりのアドベンチストたちを激怒させた。彼らは安息日の真理に反論できなかったからである。そしてこの時、神に選ばれた者たちは皆、私たちが真理を持っていることをはっきりと見て、出て来て私たちと共に迫害に耐えた。」
小さき群れへの言葉、18、19。

間もなく到来する日曜法の時に戸が閉ざされ、その日曜法に先立つ期間は、神の民に対する「訪れ」の「時」となる。

どうしてあなたがたは、「私たちは知恵がある。主の律法は私たちと共にある」と言えるのか。見よ、まことにそれはむなしくされてしまった。書記たちの筆はむなしい。知恵ある者は恥をこうむり、うろたえ、捕らえられた。見よ、彼らは主のことばを退けた。では、彼らのうちにどんな知恵があろうか。それゆえ、わたしは彼らの妻を他人に、彼らの畑をそれを受け継ぐ者たちに与える。最も小さい者から最も大いなる者に至るまで皆、貪欲にふけり、預言者から祭司に至るまで、皆、欺きを働いている。彼らは「平安だ、平安だ」と言って、平安もないのに、わたしの民の娘の傷をうわべだけ癒やした。彼らは忌むべきことを行ったとき、恥じたか。いや、少しも恥じず、顔を赤らめることもできなかった。それゆえ、倒れる者とともに彼らも倒れ、彼らが罰せられる時に彼らは打ち倒される、と主は言われる。エレミヤ書 8:8-12

古代イスラエルと同様に、現代イスラエルもまた、神の訪れの時を知らなかったがゆえに、両者とも滅びる。ラオデキヤ的アドベンティズムに対する神の訪れの時は、2001年9

月11日に始まり、間もなく到来する日曜法において終わりを迎える。

そして、彼が近づいて来られたとき、都を見て、そのために泣かれ、こう言われた、『ああ、もしあなたも、いや、あなたこそ、少なくともこの日、この時に、平和に関わることが何であるかを知っていたなら！

しかし今、それはあなたの目から隠されている。やがて日があなたに臨み、あなたの敵はあなたの周りに塹壕を築き、ぐるりと取り囲み、四方から閉じ込め、そしてあなたと、その中にいるあなたの子どもたちを地ならしにし、あなたの中に石の上に石を一つも残さない。あなたが訪れを受ける時を知らなかったからである。』

ルカによる福音書 19:41-44.

神の訪れの時に、賢い者と愚かな者は永遠に分けられる。

私たちは、真理の知識を持ってはいるが世の人々と結びついてしまった、聖別されていないセブンスデー・アドベンチストが、誘惑する霊に耳を貸し、信仰から完全に離れ去ることを知っている。敵は喜んで彼らに誘惑を差し向け、神の民に対して戦いを遂行するように彼らを導くだろう。しかし、真実で揺るぎない者たちは、神にあって強力な守りを持つであろう。Manuscript Releases、第7巻、186頁。

彼らに対する訪れの時は、1840年8月11日にプロテスタント諸教会に対する訪れの時によって予表されているように、またキリストのバプテスマに際して聖霊が下ったとき、古代イスラエルに対する訪れの時が始まっていたのと同様に、2001年9月11日に始まった。

執行審判は、アメリカ合衆国が間もなく到来する日曜法においてその恩恵期間の杯を満たすときに始まり、それはまた、ラオデキア的アドベンチスト教会が自らの杯を満たすときでもある。裁きは神の家から始まり、アメリカ合衆国の墮落した二つの角に対する恩恵期間の杯も満たされる。これまでラオデキア的アドベンチスト教会によって表されてきたプロテスタントの墮落した角はその時終息し、第三天使のフィラデルフィアの運動が真のプロテスタントの角となり、旗印として掲げられる霊的エルサレムとなる。その時点で、エルサレムは戦う教会から凱旋の教会へと変わる。

執行審判は、神の滅びをもたらす裁きの時とともに始まるが、それはまた、まだバビロンにいる神の別の群れへの憐れみの時でもある。それは、ラオデキア的アドベンチズムに対する神の臨訪の時が終わるときに始まる。執行審判は、裁きがもはや憐れみと混じり合わない最後の七つの災いへと進み、その後、イエスが再臨される。

イエスの再臨の際、黙示録20章に記された千年期（千年）は、サタンが神に対する攻撃に参加した反逆の天使たちのみを伴って、荒廃した地上に縛られていることを示している。

そして私は、天から下って来る一人の天使を見た。彼は手に底なしの淵の鍵と大きな鎖を持っていた。彼は、あの古い蛇、すなわち悪魔でありサタンである竜を捕らえ、彼を千年の間縛った。彼を底なしの淵に投げ込み、閉じ込め、彼の上に封印を施して、千年が満ちるまで、もはや諸国の民を惑わすことのないようにした。その後、彼はしばらくの間解き放たれなければならない。黙示録 20:1-3.

その千年の間、贖われた者たちは、個々の裁きの結論が下るのを待ちながらなお墓で眠っている失われた者たちに対して、調査審判を行う。贖われた者たちは、サタンとその天使たちを含む失われた者たちの生涯と境遇を吟味し、千年の終わりに誰がより重い罰に値するかを定める。

また私は、王座を見た。そこに人々が座っており、裁きが彼らに与えられた。さらに私は、イエスの証しと神の言葉のために首をはねられ、獣にもその像にも拝さず、額や手にその刻印を受けなかった者たちの魂を見た。彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した。ヨハネの黙示録 20:4

したがって、千年期には調査審判が含まれており、それが終わると、悪しき者の死者がよみがえらされる時に最終的な執行の裁きが下される。そしてそのとき、彼らを完全に支配するサタンは、千年の終わりに天から下ってくるエルサレムを攻撃するよう悪者たちをそそのかす。悪者たちが攻撃を仕掛けると、天から火が降り、最終的な執行の裁きが遂行される。

千年が満ちると、サタンはその牢から解き放たれ、地の四方にいる諸国民、すなわちゴグとマゴグを惑わしに出て、彼らを戦いのために召集する。その数は海の砂のように多い。彼らは地の広い所に上って行き、聖徒たちの陣営と愛する都を取り囲んだ。すると、神からの火が天から下ってきて、彼らを焼き尽くした。ヨハネの黙示録 20:7-9

エリヤの三重の適用と、契約の使者がご自分の宮に突然来られるために道を備える使者の三重の適用は密接に関係しているが、その働きには区別が認められる。すなわち、エリヤは主として、その使者の働きと、その使者のメッセージに伴う運動を指し示しており、それは、間もなく到来する日曜法とともに始まる執行審判の期間に成就する。契約の使者のために道を備える使者は、主として、調査審判の期間に成し遂げられる働きを指し示す。ラオデキアのアドベンチズムは、自らの顧みられる時、すなわち特定の審判の期間を知らない。

彼らへの顧みの時に宣べ伝えられる「現在の真理」のメッセージも彼らは理解していない。彼らはその時代の裁きとメッセージの双方を知っていることが求められていた。また、その時期の使者が誰であるかを知ることも求められていた。ラオデキア的な盲目の中で、彼らは時のメッセージに反対し、「平和と安全」というメッセージで自分たちへの顧みの時を否定し、その時期に選ばれた使者が誰であるかについても確信が持てない。この真理は、第二のエリヤであるバプテスマのヨハネの証しの中に明確に示された。

ユダヤ人は、預言が来るべき使者を指し示していることを知っており、イエスは、その来るべき使者がヨハネであると直接教えた。

すべての預言者と律法は、ヨハネの時まで預言しました。もしあなたがたが受け入れるなら、この人こそ来るべきエリヤです。聞く耳のある者は聞きなさい。マタイの福音書 11:13-15。

彼らの訪れの時期のまさに結末に（間もなく到来する日曜令を型どっている、キリストの歴史の中の時期）、キリストが十字架にかかっておられたとき、ユダヤ人たちは、そのときエリヤが来てイエスを救うのではないかと考えた。契約の使者のために備えをする

はずの使者を彼らが認めなかったのなら、その契約の使者がちょうどご自身の血によって契約を確証しておられたそのときであっても、彼らは自分たちのメシアを認めることができなかつた。終わりの時代のラオデキヤ的アドベンチズムは、自分たちの審判、すなわち自分たちへの訪れの時を知ることを求められている。彼らはその時期のメッセージを認識し、その時のために選ばれた使者を認めることを求められている。1888年の反逆は、黙示録18章の天使が降臨した2001年9月11日に表象された。1888年の反逆者たちは、終わりの日々を型どっていたその歴史において、選ばれた使者たちを認めることを拒んだ。

次の記事でこの研究を続けます。

こうしてイスラエルの神、主が私に言われた。「この憤りのぶどう酒の杯を私の手から取り、私があるあなたを遣わすすべての国々にそれを飲ませよ。彼らはそれを飲み、よろめき、狂う。私が彼らの間に送る剣のゆえに。」そこで私は主の御手からその杯を受け取り、主が私を遣わされたすべての国々にそれを飲ませた。すなわち、エルサレムとユダの町々、その王たちとつかさたち-彼らを荒廃とし、驚きとし、嘲りとし、のろいとするために-今日のとおり。エジプトの王ファラオ、その臣僕、そのつかさたち、そしてその民すべて。混じり合ったすべての民、ウツの地のすべての王、ペリシテ人の地のすべての王、アシュケロン、アツザ、エクロン、アシュドドの残りの者、エドム、モアブ、アンモンの子ら、ツロのすべての王、シドンのすべての王、海に向こうにある島々の王たち、デダン、テマ、ブズ、そして遙かな隅々にいる者すべて、アラビアのすべての王、荒野に住む雑多な民のすべての王、ジムリのすべての王、エラムのすべての王、メディアのすべての王、北のすべての王、遠い者も近い者も、互いに、そして地の表にある全世界のすべての王国。そしてシェシャクの王は彼らの後に飲むであろう。それゆえ、彼らにこう言え。「万軍の主、イスラエルの神はこう言われる。飲め、酔え、吐け、倒れよ。私があるあなたがたの間に送る剣のゆえに、二度と起き上がるな。」もし彼らがあなたの手から杯を受け取って飲むことを拒むなら、彼らにこう言え。「万軍の主はこう言われる。あなたがたは必ず飲む。見よ、私の名をもって呼ばれるこの都に災いを下し始めているのに、あなたがたが全く罰されないだろうか。あなたがたは罰を免れない。万軍の主の言葉。私は地に住むすべての者の上に剣を呼び寄せるからだ。」それゆえ、これらすべての言葉をもって彼らに預言し、こう言え。「主は高き所からほえ、その聖なる住まいから声を出される。主はその住まいに向かって力強くほえ、ぶどうを踏む者のように叫び、地のすべての住民に向かって声をあげられる。」どよめきは地の果てにまで届く。主は諸国と論争を起こし、すべての肉なる者をさばかれる。主は悪しき者どもを剣に渡される、と主は言われる。万軍の主はこう言われる。「見よ、災いは国から国へと出て行き、大いなるつむじ風が地の果ての方から起こされる。」その日、主に撃たれた者は、地のこの端からあの端までに及ぶ。彼らは嘆かれることも、集められることも、葬られることもなく、地の上の肥やしとなる。エレミヤ書 25:15-33。